

杉本真維子

「奨学生」も「口語詩句賞」も、選者による投票形式で選出されていますので、議論形式の場合にあるような全体の選考過程というものはありません。ですので、投稿者の方々が本選を俯瞰して考えるためには、選者ひとりひとりの評をできるだけ主体的に読んでいただく必要があります。ぜひ月次投稿の総評に再度目を通し、ご自分への評だけでなく、ほかの投稿者への評にも目を向けて、今後の創作に役立てていただきたいと思います。

さて、今回「奨学生」に選出された方も、残念ながら届かなかつた方も、月次投稿で佳作の評価を得たという事実は変わりません。毎月の投稿数をご確認いただければ、それがどれだけ難しいことか、おわかりになると思います。すでに一定以上の力は認められています。これからも自信をもって、でも決して驕ることなく、口語詩句とともに前へ進んでいっていただきたいと思います。

それでは、私が推薦した方のなかで、とくに印象に残った一篇について寸評いたします。

白野

潮風にかこまれながら夜はただ／ひかりの無さ　あなた
はあなた

安易に詩的に流れるのではなく、ぎりぎりまで思考を手放さず、平常心で詩に向かおうとしています。その抑制的な創作態度は、読者の信用を得るものと思います。

松下誠一

氣怠げに冬のホームで整理する／鞄に散らばる色鉛筆をモノクロームの日常を突き破るような、色とりどりの鉛筆。氣怠げな手つきが、本人もまだ知らないおのれの大きな力を予感させます。

中矢温

虫の闇ギターの内に木の素肌
ギターの内部に入り込んだ虫の視点が、虫の呼吸までも掬い上げているようです。

吉沢美香

塩鮭が瞼のように置かれてる
かたちから詩を掴むことは案外難しく、比喩が凡庸で

も奇抜でもうまくいきません。「塩鮭」と「瞼」。この直喻はなかなか思いつくものではないでしょう。

夜

太陽の特別授業／向日葵畠

一斉に太陽のほうをむいた向日葵の立ち姿は美しくも、どこか不気味なのですが、「特別授業」という言葉が一瞬でその光景をほほえましいものにしています。その素直でまっすぐな力に注目しました。

そのほか、推薦した方の作品のなかでとくに印象に残つたものを挙げます。

長谷川柊香

流れ星夜空の傷はすぐ閉じる

花澤希海

数列の朽ちれば麒麟草まわる

サトリ

ひかりをかざせば／知性の色に輝く赤子の掌

藤ほたる

気に入つた文字と／ひとつになれたらな／仰向けて上目遣いで 弓

折田日々希

観覧車から街を眺める心地する／姉のつむじをひさびさにみて

吉富快斗

秋旻に紅引くような星滑る

涸れ川を歩く心地でものを言う

風見みどり

ことばを一つ落としたでしよう／街灯ぽつんと光つているひとまずはお疲れさまでした。これからも作品を楽しみにしています。